



ひな い 11月

発行/大館市立比内公民館 大館市比内町扇田字庚申袋8 Tel 43-7141 fax 55-3652

第50回比内町芸術文化祭 11月2日・3日

地域の皆様の学習成果を発表する比内芸術文化祭を11月2日（土）3日（日）の2日間、比内公民館で開催します。講堂では多彩な芸能発表プログラムのほか、2階展示会場では、書道、短歌、七宝焼、写真、絵画、手芸、生け花や小・中学校児童生徒の作品等が展示されます。ぜひご来館ください。

比内町芸術文化協会が創立50周年を迎えました！

芸術文化協会の発足と共に、文化祭から芸術文化祭にリニューアルされたのが昭和49年のことで、今年ついに50回の節目を迎えます。3日（日）の午後には、記念講演とともに式典を予定していますので、皆様もぜひ、比内町芸術文化協会創立50年の歴史的な節目にお立合いください。

◆11月2日（土）

展示ほか

☆ 作品展示	9:00～16:30	(2F 各研修室)
☆ お楽しみ出店	9:00～16:30	(屋外ブース)
☆ 藤工芸体験	10:00～15:00	(1F講堂)
☆ バザー	10:00～15:00	(1F講堂)
☆ お茶席	10:00～14:30	(1F第1研修室)
☆ 食堂	10:00～15:00	(1Fホール)



ステージ発表

※時間は変動する場合があります

1 開会式	主催者あいさつ	10:00	～	10:05
2 吹奏楽演奏	比内中学校吹奏楽部	10:05	～	10:35
3 ハーモニカ演奏	比内ハーモニーフレンズ	10:35	～	10:55
4 カラオケ	かばだのえ	10:55	～	11:55
昼 休 み				
5 笛・太鼓演奏	ハッタギ踊り伝承会	13:30	～	14:00
6 ポピュラー音楽	音楽同好会 アップルズ	14:30	～	15:00
7 アコーディオン演奏	佐々木和則	14:00	～	14:30

◆11月3日（日）

展示ほか

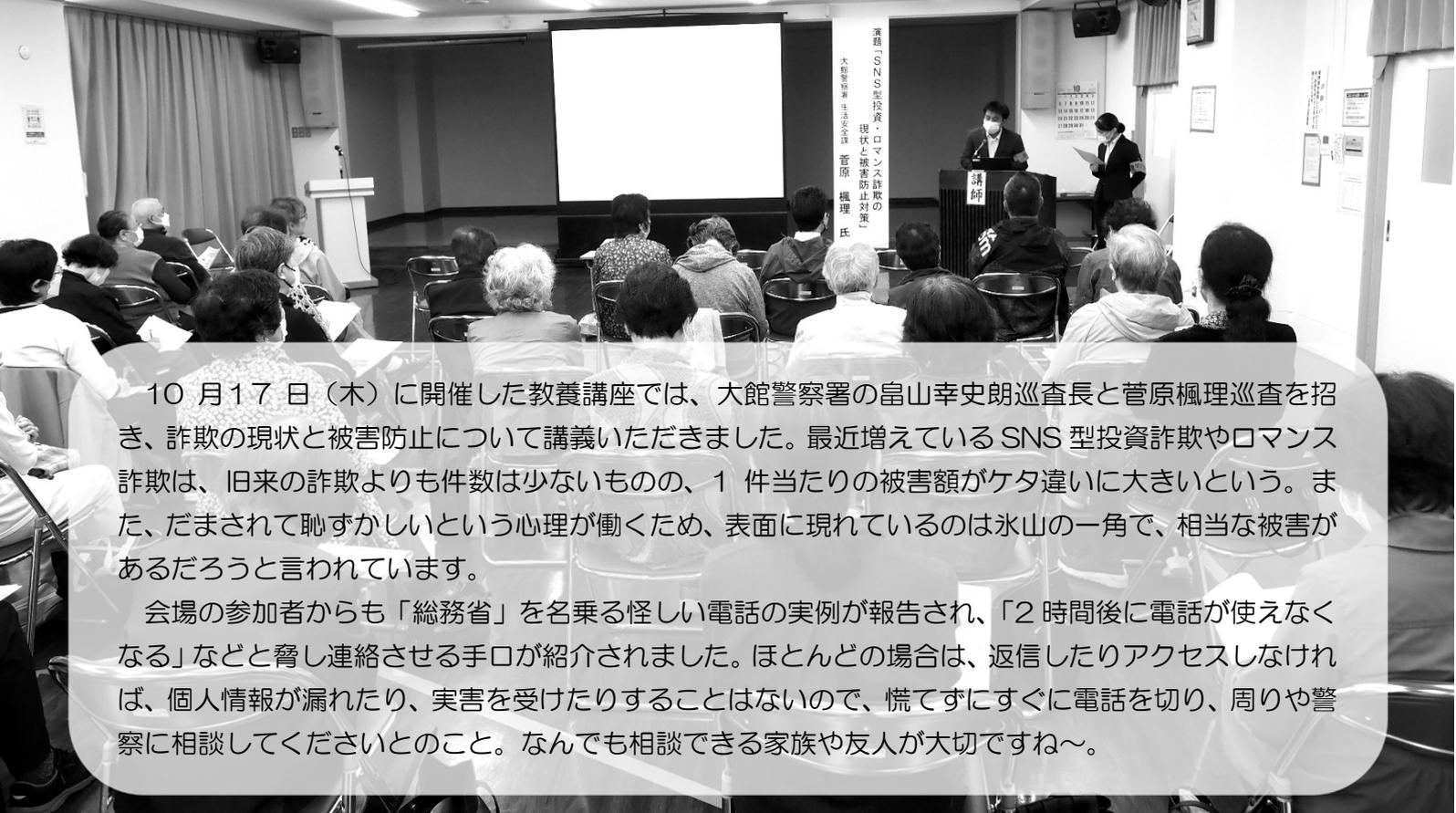
☆ 作品展示	9:00～15:30	(2F 各研修室)
☆ お楽しみ出店	9:00～15:30	(屋外ブース)
☆ 食堂	10:30～15:00	(1F ホール)

ステージ発表

※時間は変動する場合があります

1 バンド演奏	大館ハチ公バンド	10:00	～	11:00
2 ヒップホップダンス	フライヤーズ	11:00	～	11:10
3 二胡演奏	大館二胡の会	11:10	～	11:35
4 ウクレレ演奏	ウクレレサークル ヒットオーシャンズ	11:35	～	12:00
5 オカリナ演奏	オカリナサークル トライ	12:00	～	12:25
6 よさこい演舞	爛天蘭(えんてんか)	12:25	～	12:45
7 新舞踊	彩りの会	12:45	～	13:15
8 文化講演会	「野球、長岐家、そして比内」 ～支えてくれた皆さまへ感謝の気持ちを込めて～	13:30	～	14:30
9 比内町芸術文化協会創立50周年記念式典	県立大館桂桜高校 校長 中田 善英 氏	14:30	～	15:00

SNS 型投資・ロマンス詐欺の現状と被害防止対策



10月17日(木)に開催した教養講座では、大館警察署の畠山幸史朗巡查長と菅原楓理巡查を招き、詐欺の現状と被害防止について講義いただきました。最近増えているSNS型投資詐欺やロマンス詐欺は、旧来の詐欺よりも件数は少ないものの、1件当たりの被害額がケタ違いに大きいという。また、だまされて恥ずかしいという心理が働くため、表面に現れているのは氷山の一角で、相当な被害があるだろうと言われています。

会場の参加者からも「総務省」を名乗る怪しい電話の実例が報告され、「2時間後に電話が使えなくなる」などと脅し連絡させる手口が紹介されました。ほとんどの場合は、返信したりアクセスしなければ、個人情報が出たり、実害を受けたりすることはないので、慌てずにすぐに電話を切り、周りや警察に相談してくださいとのこと。なんでも相談できる家族や友人が大切ですね～。

編集後記に代えて

比内町芸術文化協会機関紙「芸林比内」創刊号から

比内町芸術文化協会が創立から50周年の節目を迎えるということで、改めて機関紙「芸林比内」の創刊号を拝見しました。

創刊号の現物はすでに残っていないのですが、この事態を見越して創刊号から第6号までを合本復刻版として残しているところがまた「すごいなあ」と感服した次第です。

寄稿されている面々の多くはすでにお亡くなりになっていますが、綴られている内容はとても若々しく、はつらつとされています。学習や創作活動を通じて自分自身を磨き、地域に貢献しようとする意気込みが伺えます。

顧問 佐藤徳次郎氏の文末には、「形式化した芸文協組織や活動にとらわれることなく、前人未到の新分野を開拓するという情熱と意気込みで比内芸文協の発展のために頑張っているのではないかと記されています。

編集後記をみると、春に局長が床に伏し、秋に会長が病に倒れたとあり、結成初年度から難儀な日々であったようです。また(芸林が)「宣伝パンフの綴り込みにならぬように」とあり、芸文協の運営については、「行事消化の団体で終わらないよう

に」「生涯教育の片棒を担ぐだけでは主語を失う」「こもってばかりでは地域の変革も発展も図れまい」とあります。そして、「伝承文化は文化財保護委員会が、創造芸術は芸文協が受け持つべき」と主張されています。とても先進的で独自の目標を自身と団体に課していたようにお見受けしました。

その精神を受け継いで、創作活動の発表の場としての「芸術文化祭」と、執筆活動の発表の場としての「芸林比内」が、今日まで50年間欠かさずに続けてこられたことには頭が下がるばかりです。時代の変化と共に形は変わる必要があるでしょうが、先人の気概や精神は見習いたいものです。(若)

